

2019年（令和元年）全国犬猫飼育実態調査 結果

犬：879万7千頭、猫：977万8千頭
犬・猫 推計飼育頭数全国合計は、1,857万5千頭

ペット飼育に関する高齢者の動向を考慮し、本年も調査対象者の年齢は「20～79歳」。時系列では2015年～2018年の過去5年間の調査結果により今回集計。

猫の飼育頭数は直近の5年間の傾向としては緩やかに増加傾向であるが、犬の飼育頭数は減少傾向。一昨年、昨年に続き今回の調査でも、猫の飼育頭数が犬の飼育頭数を上回った。

犬の「純血」は9割近く、猫の「純血」は増加傾向。特に、犬の「散歩・外出時以外室内での飼育」は増加傾向。室内飼育が進む中、「集合住宅での飼育が禁止」されている住環境問題が大きな飼育阻害要因となっている。

ペットフードの事業者を中心とした86社（正会員55社、賛助会員31社）で組織する一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：石山恒】は、2019年（令和元年）全国犬猫飼育実態調査を行ない、この度その結果がまとまりました。

主な結果は次の通りです。

1. 2019年 全国犬・猫 推計飼育頭数 (P. 17)

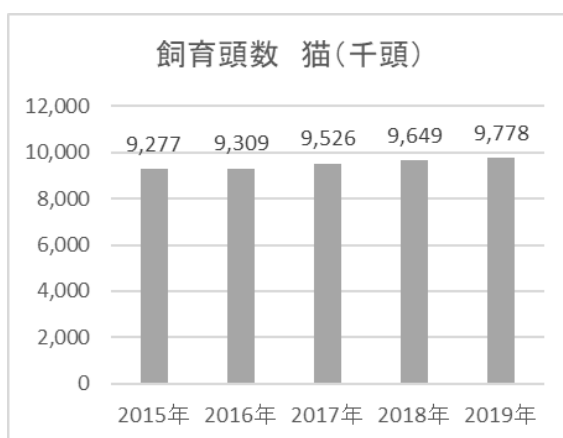
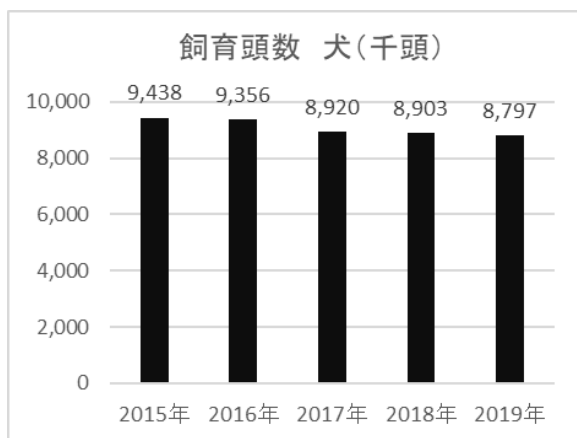
全国の推計飼育頭数 犬：879万7千頭、猫：977万8千頭。

調査対象者の年齢を「20～79歳」として、2015年～2018年の過去5年間の調査結果により今回集計しました。

時系列でみると、猫の頭数は横ばい、犬の頭数は減少傾向にあり、昨年に続き今回の調査でも、猫の飼育頭数が犬の飼育頭数を上回りました。また飼育率も世帯数の増加傾向が続く中で、猫は9%後半を維持し、犬は、減少傾向にあります。(P. 18)

	世帯数 (単位：千)	飼育世帯率	飼育世帯数 (単位：千)	平均飼育頭数	飼育頭数 (単位：千)
<犬>	56,996.5	12.55%	7,152	1.23	8,797
<猫>	56,996.5	9.69%	5,524	1.77	9,778

尚、猫の頭数調査結果には外猫の数は含まれておりません。



2. 2019年 犬猫の年代別現在飼育状況 (P. 18)

年代別での飼育状況をみると、5年前と比べ犬の飼育率はどの年代でも減少しており、最も飼育率の低下が顕著なのは50代でした。なお、20 - 60代の飼育率減少に比べ、70代の飼育率は維持されています。また、猫の飼育率は、5年前と比べてほぼ横ばいとなっています。

()は2015年比

	犬	猫
全体	12.5% (▲1.6%)	9.7% (○0.1%)
20代	13.9% (▲0.2%)	9.4% (○0.2%)
30代	11.3% (▲0.9%)	9.5% (○0.6%)
40代	12.3% (▲0.6%)	10.1% (○0.3%)
50代	14.2% (▲3.3%)	10.9% (▲0.6%)
60代	13.2% (▲2.4%)	10.2% (▲0.7%)
70代	10.4% (▲0.3%)	7.9% (○0.9%)

3. 2019年 犬猫の年代別今後の飼育意向 (P. 19)

年代別での今後の飼育意向は、5年前と比べ犬の飼育意向がどの年代でも減少しており、最も飼育意向の低下が顕著なのは50代でした。なお、猫の飼育意向は、5年前と比べてほぼ横ばいとなっています。

飼育意向のある方々が、犬を飼育できるような環境の整備やサービスの向上が将来に向けての飼育頭数拡大に必要といえます。

()は2015年比

	犬	猫
全体	20.5% (▲2.7%)	15.5% (▲0.5%)
20代	24.3% (▲3.0%)	18.6% (▲1.7%)
30代	21.1% (▲2.4%)	16.7% (▲0.4%)
40代	20.7% (▲2.5%)	16.5% (▲0.8%)
50代	21.6% (▲5.1%)	16.9% (▲1.3%)
60代	19.9% (▲3.0%)	14.1% (0.1%)
70代	16.4% (0.6%)	10.6% (1.0%)

4. 2019年 犬・猫平均寿命 (P. 23)

犬全体の平均寿命は14.44歳、猫全体の平均寿命は15.03歳でした。犬は、超小型犬の寿命が長く、また、猫の場合、「家の外に出ない」猫の平均寿命は15.95歳、「家の外に出る」猫の平均寿命は13.20歳と寿命に大きな差がありました。

5. 2019年 今後ペットの飼育促進に向けて

今後ペットの飼育促進に向けて、現在、非飼育者で飼育意向のある方々の「阻害要因」、「飼育のきっかけ」への回答として挙げられた上位項目は以下の通りとなりました。(複数回答)

阻害要因 非飼育者&飼育意向あり__犬 (P. 87)

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 旅行など長期の外出がしづらくなる | 25.4% |
| 2. 別れが辛い | 23.6% |
| 3. 集合住宅に住んでいて禁止されている | 23.0% |
| 4. お金がかかる | 22.9% |
| 5. 死ぬとかわいそう | 21.9% |

阻害要因 非飼育者&飼育意向あり__猫 (P. 88)

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 集合住宅に住んでいて禁止されている | 32.7% |
| 2. 旅行など長期の外出がしづらくなる | 22.1% |
| 3. お金がかかる | 20.0% |
| 4. 別れが辛い | 18.8% |
| 5. 十分に世話ができない | 17.4% |

飼育理由__犬 (P. 32)

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから | 35.9% |
| 2. 過去に飼育経験があり、また飼いたくなかったから | 29.2% |
| 3. 家族や夫婦のコミュニケーションに役立つと思ったから | 16.8% |

飼育理由__猫 (P. 53)

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから | 31.8% |
| 2. 過去に飼育経験があり、また飼いたくなかったから | 29.2% |
| 3. 生活を充実させたいからから | 11.5% |

6. 2019年 ペットフードのタイプ別利用率 (複数回答) (P. 75)

犬猫共に市販のドライタイプのペットフードの利用が約9割あり、ほとんどの飼育者が何らかの市販のペットフードを利用しています。

また、猫に「おやつ」をあげる人が増えてきています。

() は去年の数字

ペットフードのタイプ	犬	猫 (外猫を除く)
市販のドライタイプ	85.1% (84.7%)	91.8% (92.2%)
市販のウェットタイプ	26.9% (26.2%)	49.0% (49.6%)
市販の半生タイプ	18.5% (18.2%)	16.2% (15.0%)
市販のおやつ	39.2% (39.0%)	40.2% (38.2%)
ペット用療法食	8.4% (7.8%)	11.7% (10.7%)
手作りのペット用食事	13.2% (12.4%)	3.8% (4.0%)
人間の食事の残り	6.7% (7.0%)	3.1% (3.3%)
その他	2.8% (3.1%)	2.5% (2.2%)

7. 2019年 1ヶ月当たり支出総額 (犬: P. 37 猫: P. 58)

犬猫それぞれの支出総額は以下の通りです。() は去年の数字

犬に関する支出総額 (医療費等含む) ￥11,562 (￥10,368)

猫に関する支出総額 (医療費等含む) ￥7,485 (￥6,236)

以上